

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270700111		
法人名	有限会社 ウイングス		
事業所名	グループホーム ほほえみ 1F		
所在地	静岡県伊豆市市山243-2		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2270700111-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2270700111-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成25年8月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

高齢である利用者様が穏やかで笑顔と笑いのある時間が過ごすことができるよう努めたい。また家庭の延長であるような居心地の良いホーム作りを目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の職員は入居者を人生の先輩として敬い、言葉遣いや接し方に気を配っていることが感じられる。また、ホーム内は明るく清潔で、家庭的な雰囲気の中、入居者がくつろいで暮らしている。職員間で情報が共有され、何かあるごとに話し合い、即断即決で対応できることには素早く取り組んでいる。このことは家族アンケートにも反映されている。代表やケアマネジャーは認知症やグループホームのあり方について現状に満足することなく、向上心がある。また、職員の話聞くよう努力し、時にはその場で注意をして、入居者が心地よく過ごせるように配慮している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人らしく暮らし続ける日々を愛で生きる」を常に念頭に置き、穏やかなその人らしい暮らしができるよう努めている。	開設当初にスタッフで話し合っ作られた理念を、玄関の目につく所に掲げている。入居者が一人ひとりその人らしく安心して生活できるように、全職員で話し合っ支援している。支援に迷いがあるときは職員で話し合っ、早急に対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として区費を納め、広報回覧等に目を通したり、区で開催している区民大会に参加している。	地区会への加入により行事等を確認し、すぐ近くの広場で行われる行事に参加している。散歩に出た時には、近隣に挨拶をし、近所の方が声をかけてくれたり、野菜の差し入れや、事業所の周りの草を自主的に刈ってくれる等、地域の協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネが市包括支援センターで行っている各小中学校、各地区の認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトで講師として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。事業所の内容報告や取り組みに対して、出席者の外部の目を通しての率直な意見をいただき、サービス向上に生かしている。	行政担当者や民生委員の参加で、2ヶ月に一度開催されている。ホームでの入居者の様子を報告したり、相談を持ちかけることもある。意見やアドバイスは議事録にまとめ全職員に回覧し、会議で取り上げ、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネ連絡協議会、介護保険サービス提供事業所連絡会に出席し研修を通して実状を伝えたり、又助言をしてもらっている。	市主催の会議や研修に参加したり、地域包括支援センターの職員に日頃連絡を取り、情報交換をしたり、相談のアドバイスを受けたりと協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者様の事故防止のため玄関の施錠は行っている。	入社初期研修で、身体拘束をしないケアの実践について研修を行い、職員は、入居者の行為には何らかの理由があることを理解し、日頃から行動をよく見て、話を聞いたり、散歩に誘ったりと素早い対応を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間の話し合いや意見交換をし虐待のないケアに取り組んでいる。時により、お互いに気になる言葉使い等をしている場合は注意をして治すようにしている。		

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人暮らしの利用者に社協で行っている支援員の利用をしている。介護職員は研修をする機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、出来得る限り2名の御家族が同席をし納得と理解をして頂き契約を取り交わしている。また疑問点等がある場合、理解して頂くよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時の面談や介護計画説明時の話し合い等を通じて利用者や家族の要望意見を聴きながら運営の反映に努めている。	家族来訪時には、その入居者の様子を理解している職員が応対して意見を聞くようにしている。また、家族がしばらく訪問していない場合は、近況報告と意見・要望を聞きに向かっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや随時の話し合い、連絡ノートを活用し職員が意見や提案をしている。即決できることは実行に移行している。	申し送りノートの他に連絡ノートに職員の意見や要望を書いてもらい、全員が見てサインをしている。行事の勤務時間の変更がなされたり、ケアしやすいようにスリッパやかごを変えたりなどの細かいことは、職員で即決し実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	緊急時に備え、ケアマネも含め、職員の余裕を確保し勤務の調整に努めている。また行事等のある時は事前に勤務の調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲も考慮しながら研修の実施に取り組んでいる。資質向上に向け職員からも遠慮なく研修参加の申し出を期待したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より市内の他グループホームへの施設研修の実施。他施設での研修を通してサービスの質の向上を努める。		

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	無理強いをせず、まず施設に慣れていただく事を念頭に入れ、思いや要望また少しでも不安が軽減でき又お互いの信頼関係が築けるよう努めている。尚本人の思い困っていること等が表出しないよう傾聴しているも苦慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談又は電話相談時ご家族の意向をじっくりお聞きして可能な限り意向に沿えるようにしている。また来訪時よい関係が成り立っていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム対象外の場合、担当ケアマネ又は居住地区包括支援センターに連絡をして必要とする支援の依頼をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護ととらえず、日常生活の中で一人一人の能力に合った家事を自然な形で出来るよう支援している。又永年の経験と知識をお聞きして生活の中に取り入れている。人生の先輩として接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時最近の様子等をお伝えし嬉しい事心配なことを共に分かち合えるよう支援している。また花見、遠足の行事に家族にも参加依頼をし共に楽しく穏やかな時間を過ごすことができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人近所の方等の面会時、話し合える場所の設定やお茶等を一緒に召し上がっていただけるようにし、面会に来やすい雰囲気作りをしている。又家族にお願いをし、入居以前参加をしていた地域の老人クラブ等の集まりに参加出来るようしている。	家族や友人の訪問時には、くつろいでもらえるようにお茶やお菓子を出したり、家族の協力で地域の集まりに継続参加している入居者もいる。また入居者の家族や知り合いに踊りを披露してもらったり、カラオケを楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の、今までの生活歴、性格等の把握に努め利用者同士嫌悪なく関わりあえるよう会話を繋げたり、レクリエーション参加の声掛け促しまたテーブル席にも気を配る。		

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞、他施設へ訪問時お会いする等をしている。市内等で御家族にお会いした場合、相談や近況をお聞きしたりと利用終了後も家族との関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察やコミュニケーションで得た情報を職員間で共有し、個々の利用者の思い、希望、意向の把握に努めている。	職員は入居者に寄り添い、話を聞くことを日常的に心がけている。また、勤務中の職員間ですぐに情報を共有し、連絡ノートも活用し全職員に情報が伝わるようになっている。入浴時は個別にじっくり話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時までに家族に、今までの生活歴、生活環境等を書式に記入して頂く。また会話等からこれまでの暮らしぶりの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録、バイタルチェック、食事の摂取量、排尿排便の状態の把握に努める。このことは職員間で話し合い情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング、必要により随時介護計画を見直す。また家族の来所時、介護に対する意向をお聞きし、職員間で話し合い現状に即した介護計画に努めている。	監査の後、計画書を新しい書式に変更し、3ヶ月に1度以上、介護計画の見直しをしている。本人、家族の意向を反映し、フロアリーダーを中心にチームで話し合い、作成し見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子(本人の話した言葉、行動等)をケース記録に記入し気づきや工夫はその都度、ケアマネ、職員間で話し合い提案し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関、訪問看護ステーション又関係する居宅事業所、地域包括支援センター等との情報交換や連携支援をおこなっている。		

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域包括支援センター、各居宅支援事業所ケアマネとの連携を密にする。また各地域民生委員と顔なじみになるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望にて主治医を選択。当ホーム協力医療機関による月1回の訪問診察、それ以外の方は家族介助にて外来受診。状態説明が必要の方はケアマネが同行上記受診時必ず文面にて日常状態、バイタルチェックを記入し主治医に見て頂き適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医療機関を受診する入居者以外は、かかりつけ医に家族が連れて行っている。家族の都合がつかない時や受診の必要性を感じた時には職員が同行し、受診している。情報のやりとりも漏れがないように工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームと提携している訪問看護ステーションの看護師が週2回来所。その都度バイタルチェックの実施、利用者の状態を相談しながら疾病、日常の健康管理、医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先へ出向き、医師、看護師、理学療法士等よりの情報、家族の意向を踏まえ退院に備えている。また家族よりの相談も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、または重度化した場合、当ホームとして出来得ることを説明する。また主治医と連携を取り家族、利用者話し合い今後の方針を共有し不安を取り除くよう支援している。	入居時に重度化した場合の医療連携や家族の協力など事業所の方針を説明している。体調の変化に合わせ、家族と話し合いをして対応しているが、重度化に関して職員の意識が統一されていない。	医療機関、施設長、ケアマネージャー、職員で重度化対応について話し合い、方針の共有化とマニュアルの作成を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルは備えている。一部の職員は実践力を身につけているが全ての職員でないため今後身につけるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自発的、または消防署立会いのもとで避難訓練を実施。理解力低下の利用者がほとんどのため理解が得られるよう避難訓練を実施して行きたい。今後近隣の方たちとの協力体制づくりをしていきたい。	防災計画を立て、年に2回、日中、夜間想定訓練を行っている。職員、家族の連絡網や避難通路、ホーム内見取り図など目につく所に掲示し職員の駆けつけ時間も把握している。	近隣とは日常の交流はあるが、災害対策に関しての話し合いや、協力体制を築く取り組みに期待します。

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーを損ねない対応や言葉掛けをつねに念頭に入れて対応している。ケア記録等利用者に関する記録は利用者の目の届かない場所に保管している。	入居者の声かけは、人生の先輩として尊敬の念を持って行っている。呼び名も基本的には「～さん」で、職員が不適切と思われる対応をした時には職員同士指摘し合っている。個人情報のやり取りに関して配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いが表出出来ずらい利用者が殆どのため、表情・会話・行動を勘案して2～3の言葉を提案し最終的に本人が自己決定できるような会話を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、食事やおやつ時間は皆さんと一緒に摂って頂いている。その他はそれぞれの希望に沿った時間を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣に関しては、利用者の意向を大切にしている。更衣された後さりげなく、重ね着や身だしなみの確認をし季節に合わない、重ね着等の場合介助をしている。本人の希望があればクリーム、化粧水の使用、手の届くところに櫛を置き好きな時に髪の毛を整えたり、又理容師が来所にて散髪の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合った献立、誕生日祝い膳の実施。各々に合った食事形態の実施。食事作りを利用者はしていないが、下膳片付け、食器拭き、野菜の下ごしらえ等は職員と一緒に実施。利用者と職員が食卓を囲み会話をしながら食事を取っている。	献立や食材の購入は担当職員が行い、季節感や便秘対策に気を使っている。下膳やテーブル拭きなど、自然に入居者が行っている。ゆっくり時間をかけ、くつろいだ雰囲気でお話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェック表の記入、塩分、味付けは利用者に適切になるように努めている。十時、三時のおやつ時の水分食事時のお茶、味噌汁等の摂取。入浴後、散歩後のスポーツドリンクの摂取。脱水症状にならぬよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食前、十時、三時おやつ前のうがい、毎食後の口腔ケアの促し、または介助の実施。利用者がスムーズにできるように支援している。夕食後は義歯の洗浄液に漬け置きの実施。		

静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心、失敗することでの不安を軽減するよう気を配る。リハビリパンツ、パット、布パンツの使用は利用者の状態を勘案して職員間で話し合って決める。出来得る限り布パンツに移行できるよう支援している。	排泄のパターンを見逃さず、早めの対応で失敗や不安を軽減している。個別にパッドや夜間のポータブルトイレの使用を検討し取り入れている。トイレの横が風呂場のため失敗時の配慮もできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便チェック表にて排便間隔を把握して、歩行運動や水分補給の促し・声掛けの実施。状態のひどい利用者の場合、訪問看護師に相談後処置の実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、利用者の体調、希望により柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、気分よく入浴できるように声掛け、誘導の実施。好みの温度にも気を配り、一人一人がゆっくり入浴できるよう支援している。	入浴は入居者の楽しみであり、週2~3回希望に沿って対応している。体調や気分により、無理強いをせずに入ってもらえるように配慮している。季節の湯や入浴剤を使用し、職員と会話を楽しみながら、ゆっくり入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室であることから、利用者の希望や体調に合わせて自由に休息を取っている。居室の温度や寝具の保清に気を配り、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服説明書添付。疑問があれば薬剤師、訪問看護師、医薬書等で目的、副作用、用法や用量の理解や確認に努めている。症状の変化はその都度訪問看護師に伝え対処方法を聴き対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならぬよう、各々の出来る事を見極め役割を決めている。役割の終了後は、必ずお礼と労いの言葉を掛けて支援している。歌を歌う、ぬり絵、漢字計算ドリル、雑巾縫い、新聞を見る等出来得ることでの気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、気温、体調を勘案して、散歩、日向ぼっこ等戸外に出かけられるよう支援している。色々事情のある家族もいらっしゃるが出来得る限り、家族と一緒にの外出や自宅外泊のお願いをしている。花見、遠足には家族やボランティアも参加をしてもらっている。	日常の気分転換やストレス解消、五感の刺激になるように散歩やひなたぼっこを楽しんでいる。また、外泊希望者には家族の協力を得て行えるよう支援している。家族やボランティアと遠出をし、季節や外食を楽しんでいる。	



静岡県(グループホームほほえみ1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はありません。遠足、近所の寺院の祭典時出店で職員と一緒に買い物をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人よりの電話があった場合、取次ぎをして話しやすい状況で会話ができるよう支援している。またホームより利用者個々に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口には季節の花を植え、フロアー・洗面所等にも季節の花を生けたり、又掲示物や季節が感じられるよう七夕飾り・クリスマス飾り・お正月飾り等を利用者と一緒になって飾り付けをしているあえて生活感があるよう家庭的な雰囲気を作るよう努めている。	共用空間は明るく、清潔で、大きな窓からは季節の移り変わりが感じられる。装飾や生花など程よく飾られ、生活感がある。入居者は体操をしたりおしゃべりをしたりと一日の大半を共用空間で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士フロアーで過ごされたり、仲良し同士は居室で雑談をしたりと自由に過ごすことができるよう支援している。一人になれる場所は居室にて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今までの使い慣れた家具、身の回りの物を用意して頂きその人らしい居室になる様支援している。また居室が手狭にならぬよう身の回りの物を季節毎に交換するよう家族に協力をして頂いている。	居室は清潔で、入居前に使用していた家具や敷物、時計、ラジオ、スタンド、ぬいぐるみなどが置かれ、家族写真や自分の作品が飾られている。衣類や寝具は家族に協力してもらい、季節ごとに収納されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解出来る方は一日の流れの掲示を見て居室とフロアーを行き来している。歩行不安定の方は夜間Pトイレを使用。各居室入口に似顔絵や写真や名前を記入した紙を掲示する等居室を間違えう事のないよう、又トイレの場所も案内掲示にて対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270700111		
法人名	有限会社 ウイングス		
事業所名	グループホーム ほほえみ 2F		
所在地	静岡県伊豆市市山243-2		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270700111-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2270700111-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年8月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

高齢である利用者様が穏やかで笑顔と笑いのある時間が過ごすことができるよう努めたい。また家庭の延長であるような居心地の良いホーム作りを目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人らしく暮らし続ける日々を愛で生きる」を常に念頭に置き、穏やかなその人らしい暮らしができるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として区費を納め、広報回覧等に目を通したり、区で開催している区民大会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネが市包括支援センターで行っている各小中学校、各地区の認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトで講師として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。事業所の内容報告や取り組みに対して、出席者の外部の目を通しての率直な意見をいただき、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネ連絡協議会、介護保険サービス提供事業所連絡会に出席し研修を通して実状を伝えたり、又助言をしてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者様の事故防止のため玄関の施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の話し合いや意見交換をし虐待のないケアに取り組んでいる。時により、お互いに気になる言葉使い等をしている場合は注意をして治すようにしている。		

静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人暮らしの利用者に社協で行っている支援員の利用をしている。介護職員は研修をする機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、出来得る限り2名の御家族が同席をし納得と理解をして頂き契約を取り交わしている。また疑問点等がある場合、理解して頂くよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時の面談や介護計画説明時の話し合い等を通じて利用者や家族の要望意見を聴きながら運営の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや随時の話し合い、連絡ノートを活用し職員が意見や提案をしている。即決できることは実行に移行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	緊急時に備え、ケアマネも含め、職員の余裕を確保し勤務の調整に努めている。また行事等のある時は事前に勤務の調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲も考慮しながら研修の実施に取り組んでいる。資質向上に向け職員からも遠慮なく研修参加の申し出を期待したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より市内の他グループホームへの施設研修の実施。他施設での研修を通してサービスの質の向上を努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	無理強いをせず、まず施設に慣れていただく事を念頭に入れ、思いや要望また少しでも不安が軽減でき又お互いの信頼関係が築けるよう努めている。尚本人の思い困っていること等が表出しづらい為傾聴しているも苦慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談又は電話相談時ご家族の意向をじっくりお聞きして可能な限り意向に沿えるようにしている。また来訪時よい関係が成り立っていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム対象外の場合、担当ケアマネ又は居住地区包括支援センターに連絡をして必要とする支援の依頼をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護ととらず、日常生活の中で一人一人の能力に合った家事を自然な形で出来るよう支援している。又永年の経験と知識をお聞きして生活の中に取り入れている。人生の先輩として接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時最近の様子等をお伝えし嬉しい事心配なことを共に分かち合えるよう支援している。また花見、遠足の行事に家族にも参加依頼をし共に楽しく穏やかな時間を過ごすことができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人近所の方等の面会時、話し合える場所の設定やお茶等を一緒に召し上がっていただけるようにし、面会に来やすい雰囲気作りをしている。又家族にお願いをし、入居以前参加をしていた地域の老人クラブ等の集まりに参加出来るようしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の、今までの生活歴、性格等の把握に努め利用者同士嫌悪なく関わりあえるよう会話を繋げたり、レクリエーション参加の声掛け促したテーブル席にも気を配る。		

静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞、他施設へ訪問時お会いする等をしている。市内等で御家族にお会いした場合、相談や近況をお聞きしたりと利用終了後も家族との関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察やコミュニケーションで得た情報を職員間で共有し、個々の利用者の思い、希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時までに家族に、今までの生活歴、生活環境等を書式に記入して頂く。また会話等からこれまでの暮らしぶりの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録、バイタルチェック、食事の摂取量、排尿排便の状態の把握に努める。このことは職員間で話し合い情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング、必要により随時介護計画を見直す。また家族の来所時、介護に対する意向をお聞きし、職員間で話し合い現状に即した介護計画に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子(本人の話した言葉、行動等)をケース記録に記入し気づきや工夫はその都度、ケアマネ、職員間で話し合い提案し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関、訪問看護ステーション又関係する居宅事業所、地域包括支援センター等との情報交換や連携支援をおこなっている。		

静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域包括支援センター、各居宅支援事業所ケアマネとの連携を密にする。また各地域民生委員と顔なじみになるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望にて主治医を選択。当ホーム協力医療機関による月1回の訪問診察、それ以外の方は家族介助にて外来受診。状態説明が必要の方はケアマネが同行 上記受診時必ず文面にて日常状態、バイタルチェックを記入し主治医に見て頂き適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームと提携している訪問看護ステーションの看護師が週2回来所。その都度バイタルチェックの実施、利用者の状態を相談しながら疾病、日常の健康管理、医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先へ出向き、医師、看護師、理学療法士等よりの情報、家族の意向を踏まえ退院に備えている。また家族よりの相談も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、または重度化した場合、当ホームとして出来得ることを説明する。また主治医と連携を取り家族、利用者話し合い今後の方針を共有し不安を取り除くよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルは備えている。一部の職員は実践力を身につけているが全ての職員でないため今後身につけるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自発的、または消防署立会いのもとで避難訓練を実施。理解力低下の利用者がほとんどのため理解が得られるよう避難訓練を実施して行きたい。今後近隣の方たちとの協力体制づくりをしていきたい。		

静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーを損なわない対応や言葉掛けをつねに念頭に入れて対応している。ケア記録等利用者に関する記録は利用者の目の届かない場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いが表出出来ずらい利用者が殆どのため、表情・会話・行動を勘案して2~3の言葉を提案し最終的に本人が自己決定できるような会話を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、食事やおやつ時間は皆さんと一緒に摂って頂いている。その他はそれぞれの希望に沿った時間を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣に関しては、利用者の意向を大切にしている。更衣された後さりげなく、重ね着や身だしなみの確認をし季節に合わない、重ね着等の場合介助をしている。本人の希望があればクリーム、化粧水の使用、手の届くところに櫛を置き好きな時に髪の毛を整えたり、又理容師が来所にて散髪の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合った献立、誕生日祝い膳の実施。各々に合った食事形態の実施。食事作りを利用者はしていないが、下膳片付け、食器拭き、野菜の下ごしらえ等は職員と一緒に実施。利用者と職員が食卓を囲み会話をしながら食事を取っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェック表の記入、塩分、味付けは利用者に適切になるように努めている。十時、三時のおやつ時の水分食事時のお茶、味噌汁等の摂取。入浴後、散歩後のスポーツドリンクの摂取。脱水症状にならぬよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食前、十時、三時おやつ前のうがい、毎食後の口腔ケアの促し、または介助の実施。利用者がスムーズにできるように支援している。夕食後は義歯の洗浄液に漬置きの実施。		



静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心、失敗することでの不安を軽減するよう気を配る。リハビリパンツ、パット、布パンツの使用は利用者の状態を勘案して職員間で話し合っ決めて。出来得る限り布パンツに移行できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便チェック表にて排便間隔を把握して、歩行運動や水分補給の促し・声掛けの実施。状態のひどい利用者の場合、訪問看護師に相談後処置の実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、利用者の体調、希望により柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、気分よく入浴できるような声掛け、誘導の実施。好みの温度にも気を配り、一人一人がゆっくり入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室であることから、利用者の希望や体調に合わせて自由に休息を取っている。居室の温度や寝具の保清に気を配り、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服説明書添付。疑問があれば薬剤師、訪問看護師、医薬書等で目的、副作用、用法や用量の理解や確認に努めている。症状の変化はその都度訪問看護師に伝え対処方法を聴き対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならぬよう、各々の出来る事を見極め役割を決めている。役割の終了後は、必ずお礼と労いの言葉を掛けて支援している。歌を歌う、ぬり絵、漢字計算ドリル、雑巾縫い、新聞を見る等出来得ることでの気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、気温、体調を勘案して、散歩、日向ぼっこ等戸外に出かけられるよう支援している。色々事情のある家族もいらっしゃるが出来得る限り、家族と一緒に外出や自宅外泊のお願いをしている。花見、遠足には家族やボランティアのも参加をしてもらっている。		

静岡県(グループホームほほえみ2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はありません。遠足、近所の寺院の祭典時出店で職員と一緒に買い物をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人よりの電話があった場合、取次ぎをして話しやすい状況で会話ができるよう支援している。またホームより利用者個々に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口には季節の花を植え、フローア・洗面所等にも季節の花を生けたり、又掲示物や季節が感じられるよう七夕飾り・クリスマス飾り・お正月飾り等を利用者と一緒になって飾り付けをしているあえて生活感があるよう家庭的な雰囲気を作るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士フロアで過ごされたり、仲良し同士は居室で雑談をしたりと自由に過ごすことができるよう支援している。一人になれる場所は居室にて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今までの使い慣れた家具、身の回りの物を用意して頂きその人らしい居室になる様支援している。また居室が手狭にならぬよう身の回りの物を季節毎に交換するよう家族に協力をして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解出来る方は一日の流れの掲示を見て居室とフロアを行き来している。歩行不安定の方は夜間PTイレを使用。各居室入口に似顔絵や写真や名前を記入した紙を掲示する等居室を間違え事のないよう、又トイレの場所も案内掲示にて対応している。		